

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)
 Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2020年9月17日(木)

NO. 1100号

本号3頁

国会開会日行動

安倍亜流内閣認めない！敵基地攻撃能力保有反対！と300人

第202回国会（臨時会）は9月16日に召集され、18日まで開催されます。首班指名を行い、組閣が行われました。総がかり行動実行委員会は、12時から、衆議院第二議員会館前で、国会開会日行動を行いました。行動の名称は、『いのちを守れ！臨時国会は本格的な議論を！安倍亜流内閣認めない！敵基地攻撃能力保有反対！市民と野党の共同で政治を変えよう！ #0916 臨時国会開会日行動』です。

主催者挨拶した高田健氏は、「安倍退陣は市民と国会内で奮闘してきた立憲野党の連携したたたかいで追い込んだ」と強調し、「私たちの力、市民と野党の新しい政治を実現しよう」と呼びかけました。

駆けつけた日本共産党の小池晃書記局長、立憲民主党の泉健太政調会長、沖縄の風の高良鉄美幹事長、社民党の福島瑞穂党首が連帯挨拶。小池氏は「安倍首相の退陣は声を上げてきた皆さんの勝利だ」と述べるとともに、首相指名選挙で立憲民主党から申し入れを受け、枝野代表に衆参とも投票する」と紹介しました。



その後、市民団体がスピーチ。共謀罪NO実行委員会の岩崎貞明（MIC）は、安倍政権のもと、あいちオリエンターレ「表現の自由展」への攻撃など言論・表現の自由、取材報道への自由がむしばまれてきたと報告。「市民の皆さん、国際社会の良識ある人たちと連帯し、この日本の異常さを変えて行きたい」と語りました。

菅氏が自民党の新総裁に選出される！

行き詰まった安倍政治の全面継承へ

自民党は14日、都内で両院議員総会を開き、総裁選挙の投開票を行い、菅義偉官房長官を新総裁に選出しました。自民党国会議員（394票）と都道府県連代表（各3票、計141票＝地方票）の計535票で争われました。この日の投票総数は534票で、菅氏が377票を獲得して当選。岸田氏は89票で、石破氏は68票でした。党内7派閥のうち5派や無派閥グループの支援を受け、岸田文雄政調会長、石破茂元幹事長を大差で破りました。

新総裁に選出された後、菅氏はあいさつで「安倍総理が進めてきた取り組みを継承し進めていかなければならない。私にはその使命がある」と述べ、安倍政治の継承を改めて表明。目指す社会像について「自助、共助、公助」「まずは自分でできることは自分で」などと自己責任を強調しました。



さらに、改憲について「まず憲法審査会を動かしていくことが大事。そこで議論して（改憲に向けて）国民の雰囲気を高めていくことも大事だ」と改めて改憲推進の立場を示しました。解散・総選挙の条件について「いまはコロナ感染者が毎日出ている状況だ」「専門家の先生の見方が『完全に（感染拡大が）下火になってきた』とならなければなかなか難しい」と語りました。

菅氏は7年8カ月の第2次安倍政権で発足当初から官房長官を務

めてきました。総裁選では、安倍政権の経済政策（アベノミクス）や外交・安保政策の継承を強く打ち出し、安倍首相が狙った改憲に「引き続き挑戦していきたい」と述べてきました。また、森友学園、加計学園、「桜を見る会」疑惑の対応について、再調査を否定する姿勢を示し続けました。

しかし、行き詰まった安倍政治の全面継承しか選択肢がないのは二重の行き詰まりで、自民党の劣化を示すものです。

憲法会議の安倍辞任の表明を受けての声明の中で、次のように指摘しています。

「安倍政権は、約7年8カ月続き、2020年8月24日には連続在職日数の2798日を超え、憲政史上最長となりました。その安倍政権のレガシー（政治的遺産）は「長いだけがレガシー」で、後は全てが「負のレガシー」と言わざるを得ません。森友・加計学園疑惑や「桜を見る会」疑惑等などの政治の私物化、特定秘密保護法・集団的自衛権の行使を可能とした戦争法（安全保障関連法）・共謀罪法の制定強行などによる「戦争する国づくり」への邁進、二度の消費税増税など国民いじめの悪政推進、道半ばのデフレ脱却とアベノミクスの破綻、「北方領土」返還・日本人拉致問題解決などの頓挫、6年連続で防衛予算の過去最高を更新させた軍事大国化、新型コロナウイルス感染拡大阻止のための一斉休校・「安倍のマスク」配布などの非科学的で思い付き対策など、枚挙にいとまがありません」

このような「負のレガシー」だけの行き詰った安倍政権を継承しようとする菅氏の政権は、間違いなくすぐ行き詰ってしまうのではないのでしょうか。

各野党の委員長らがコメント

志位氏「行き詰まった道を「この道しかない」と突き進むことに未来はない」

自民党新総裁に菅氏が選出されたことを受けて、野党の代表・委員長がコメントを出しています。

◆日本共産党の志位委員長は、①「安倍政権の継承」を最大の看板に掲げた菅氏を総裁に選んだということは、自民党全体がこの道を選択したということだ。しかし、内政、外交、政治モラル、コロナ対策、どの問題をとっても「安倍政治」の行き詰まりは明らかであり、行き詰まった道を「この道しかない」と突き進むことに未来はない。そのことは、菅氏が、この国をどうするのかについて、菅氏なりのビジョンを何一つ示せない、驚くほど訴えに中身がないことにも示されている。

②菅氏がもう一つ強調したことは、「自助、共助、公助」、すなわち「自己責任」の強調だった。しかし、国民に「自助」を求めるだけだったら政治は何のためにあるのか。そんな政治に存在価値はない。国民に「自己責任」を押し付ける冷酷な新自由主義の暴走が、菅体制のもとで、これまでよりいっそうひどくなることを強く警戒しなければならない。③こうした人物に、日本の政治のかじ取りをまかせるわけにはいかない。市民と野党の共闘の体制をしっかり作りあげ、総選挙で、菅体制を倒し、政権交代を実現するために全力をあげる。

◆新立憲民主党の枝野幸男代表は、「遠からず本格論戦の機会をつくっていただけると期待する。衆院解散は受けて立つが、まずは国会論戦を強く求めたい」と述べました。また、「国会論戦から逃げて解散をすることはないだろう」と述べ、安倍辞任・新首相誕生で自民党の支持率が上昇し、自民党内に早期解散・総選挙を望む声が浮上していることを踏まえて、菅氏をけん制しました。

菅氏 自民党役員人事・組閣でも、安倍政治継承のための人事実施

自民党の菅新総裁は15日、二階俊博幹事長（81）を続投させました。政調会長に細田派の下村博文選対委員長（66）、総務会長に麻生派の佐藤勉・衆院憲法審査会長（68）、選対委員長に竹下派の山口泰明・党組織運動本部長（71）をそれぞれ起用。さらに、石原派の森山裕国選対委員長（75）を再任。総裁選で菅氏を支持した細田、麻生、竹下、二階、石原の5派閥のバランスに配慮した派閥均衡型人事です。幹事長代行には無派閥の野田聖子元総務相（60）を充てています。

菅氏は総裁選出後、新政権での課題に「規制改革」を挙げ、「改革意欲のある人、改革に理解を示す人を中心に人事を進める」、また「脱派閥人事」と表明。「（人材は）いろんな派閥に散らばっている」とも指摘し、党内から幅広く起用する方針を示しました。しかし、派閥均等人事そのものです。

さらに、組閣では、二階氏とともに総裁選勝利に貢献した麻生太郎副総理兼財務相については「極めて政権運営で重要」と強調し、副総理兼財務相に再任させました。さらに、安倍政権から再任した閣僚は、茂木敏充外務大臣、萩生田光一文部科学大臣、梶山弘志経済産業大臣、小泉進次郎環境

大臣、橋本聖子東京オリパラ担当大臣、それに新型コロナ担当の西村康稔経済再生担当大臣と公明党の赤羽一嘉国土交通大臣の8人です。

また、自身の後任となる官房長官には竹下派の加藤勝信厚生労働相。武田良太国家公安委員長が総務大臣に、河野太郎防衛大臣が行革担当大臣に横滑りで起用。再登板するのは上川陽子元法務大臣と田村憲久元厚労大臣、小此木八郎元国家公安委員長で、同じポストで起用しています。菅総裁肝いりのデジタル担当大臣には平井卓也元IT担当大臣が再入閣しました。

初入閣するのは5人。農林水産大臣に野上浩太郎元官房副長官、防衛大臣に安倍総理の弟の岸信夫元外務副大臣を起用。また、復興大臣に平沢勝栄元内閣府副大臣、一億総活躍担当大臣に坂本哲志元総務副大臣、そして、新設の万博担当大臣には井上信治元環境副大臣を起用しました。

菅氏は、「安倍政権の継承」を掲げ、組閣でも閣僚の多くを再任・横滑りさせました。菅氏は「首相が代わるわけだから思い切って私の政策に合う人を登用する」との意向を示していましたが、そうはなりません。これでは、総裁選で自分を支援した5派閥にバランスよく配慮した、安倍なき「安倍政治」を推進するための「代わり映えしない」、「新鮮味のない」自民党役員人事と言わざるを得ません。

各地のとくみ

愛知 安倍退陣後も9条改憲許さぬ! 名古屋で学習・交流集会開催

憲法改悪反対愛知共同センターは8日、名古屋市内で学習・交流集会を開き、120人が参加して安倍首相退陣後も9条改憲を許さない運動を広げる決意を固めました。

渡辺治一橋大学名誉教授が「安倍なき『安倍政治』、安倍なき「安倍改憲」を許さない!—ポスト安倍政権と改憲阻止の展望」と題してZOOM講演。「安倍首相を退陣に追い込んだのは、安倍改憲に反対する共闘のかんばりで改憲のもくろみを破たんさせたこと。安倍政治が続けてきたコロナ対策に無力だった」と指摘。ポスト安倍政権は新自由主義と「土木・観光路線」の続行を狙い、改憲に執念をもっていると述べ、「改憲阻止緊急署名を広げるとともに、市民と野党の共闘で自公政権をかえることが改憲の息の根を止めるもっとも確実な手だて」と強調しました。

参加者から国会の憲法審査会の議論について質問が出され、渡辺氏は「自公の国民投票案は公平性に欠ける不平等なもの。『コロナ禍で審議をやっている時ではない』などの声を受け審議は進んでいない」と答えました。

関久一事務局長が今後の活動方針について「弁護士などを講師に草の根から学習会を開く。地域・団体が協力し、署名宣伝行動や集会・デモを行こなう。署名推進ニュースの発行」などを提案し、参加者全員の拍手で確認しました。

東京 10区(豊島他)

コロナ対策パネルディスカッション 立民・国民・共産・れいわ候補出席

東京10区「TeNネットワーク」は、9月12日、「野党予定候補者に聞く新型コロナ対策」のパネルディスカッションを開催しました。

総選挙に立候補を予定している立憲野党の候補者が全員揃いました。立憲民主党鈴木ようすけ、国民民主党たるとい良和、日本共産党杉江まき、れいわ新撰組渡辺てる子各氏が、「新型コロナ対策、消費税減税問題」などについて論戦を戦わしました。

各氏共に「野党共闘を進めることによって、安倍継承内閣を倒して、国民のための政治を進める」ことで一致しました。

参加者は、コロナ禍で最大限の50名が集まり、zoomでも20数名が参加しました。近々の総選挙に向けて統一を目指し、TeNネットワークは全力を尽くすことを誓い合いました。(森田彦一)



〈東京革新懇 mailfax ニュースより〉